



きよさとっ子

親（保護者）の役割 ～学校は上手に失敗させるところ～

校長 渡邊 正博

1月から2月にかけて降り積もった大雪が清里小学校周辺のどこかしこにそびえ立っています。この雪を夏まで貯めることができたなら、昨年のような大渇水にも耐えられるのに…と後悔してしまいます。毎日40度近い日照りが続いたと思えば、災害級の豪雨。そして今度はドカ雪。ここ数年の異常気象の中、学校だけでなく、地域や企業等あらゆるところで変化に対応してたくましく生きる人材が求められています。

2月10日（火）には、新一年生の体験入学を行いました。次年度の新一年生は12名です。保護者説明会の中で、新一年生の保護者の皆様にお話しする機会がありましたので、保護者の役割について、以下のようにお話をさせていただきました。

① 「親」は、木の上に立って見ているだけでいいの？

昔から、よく言われていることです。子どもに近寄りすぎると、広く周りが見えず、我が子の言い分しか見えなくなります。しかし、逆に木の上から広く周りを見ているだけでは、子どもの育つチャンスを逃します。バランスのよい立ち位置が大切です。

② 「保護者」がやり過ぎて、「過保護者」にならないようにしましょう。

「保護」とは、「かばい、守ること」という意味です。お子さんがピンチの時に、寄り添い、守ることはとても大切です。でも、子どもを心配しすぎるあまり、かばい過ぎ、守り過ぎるのは「過保護」です。これもまた、バランスが大切です。

③ 「成長」するのは、子ども自身。親ができるのはきっかけを与えること。

清里小伝統の稲文字活動。田植えの後、肥料、水、日光で稲は成長します。稲が成長するのは、稲が自分でそれらを吸収するからです。稲を「子どもの心」に置き換えたとき、「肥料」や「水」は親や教師が与える「知識」や「経験」、「環境」です。子どもの心が成長するためには、与えられた知識や経験、環境を子ども自身が自分事として吸収しなければいけません。また、田植えの後、田んぼは「溝切り」や「中干し」をして、稲に苦しい環境を与えて、その根を太く長く丈夫なものにします。子どもの心も同じです。困難やトラブル、悩みなど、苦しい経験がなければ、子どもの心の根は太くなりません。学校は、小さな社会。「上手に失敗させ、失敗から成長する経験をさせる場所」だと私は考えています。教職員、保護者、地域はいわば、「田んぼ」。清里の未来を担う子どもたちが丈夫な根をもった人になるために、一丸となって、いい田んぼになりましょう。



1月・2月のトピック



1/23 中・高学年スキー教室

3年生以上の子どもたちが、キュービットバレイスキー場でスキー教室を行いました。天候が心配されましたが、午後から青空が広がり、気持ちのいいスキー日和となりました。リフトに乗ったり、グレンデを滑ったり、みんなでカレーを味わったりして、一日楽しむことができました。用具の準備や当日の指導など、ご協力いただきありがとうございました。



1/20 菅原神社取材

6年生が菅原神社を訪れ、神主の梅津さんにインタビューをして、神社の歴史や意義、地域での役割、梅津さんの思いなどを学びました。



1/23 そり遊び

気持ちよく晴れた午後。2年生が外に出てそり遊びを楽しみました。中庭の坂を利用して仲良く滑り、冬を満喫しました。



1/26～28 ドッジボール大会

生活向上委員会が呼びかけ、3日間に分けて低中高学年の部を行いました。どのゲームも白熱し接戦が続き、大いに盛り上がりました。



2/4 歴史博物館見学

3年生が昔のさまざまな道具を調べて、道具の名前や使われていた時期、使い方など、当時の暮らしの様子を熱心に学んできました。



2/4 清里中学校入学説明会

6年生が、中学校の校長先生から授業や生徒会、部活動のことを教えてもらい、中学校生活への具体的なイメージをもつことができました。



2/6 節分イベント

サポート学級の子どもたちの企画で実現。自分の追い出したい鬼と赤鬼・青鬼を赤白玉で追い出し、ダンスやゲームなどを楽しみました。



清里小学校道徳教育研究発表会成果リーフレット配付

1月号でお知らせしたとおり、上記のリーフレットを家庭配付および2月の町内配付物に併せて回覧させていただきました。今後も、道徳科を中心に各教科や行事などに関連付けながら、学校・家庭・地域の一層の連携を図って教育活動を進め、子どもたちの健全やかな成長を支えてまいります。引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



HP
随時更新中